



徳島大学病院 感覚・皮膚・運動機能科 皮膚科

## 仁木真理子助教



# 注射薬で治療 アトピー性皮膚炎

皆さんはアトピー性皮膚炎の治療と聞いて、何を思い浮かべますか。アトピー性皮膚炎とは、湿疹が出たり引いたりする病気です。子どもの病気と思われがちですが、全世界において見られます。アトピー性皮膚炎の方は、

アトピー素因といって、なりやすい体質と、皮膚バリア機能の低下があるため、外部からのさまざまな刺激(アレルギー)に対して、皮膚炎やかゆみを起こしやすくなります。

アトピー素因といつて、なりやすい体質と、皮膚バリア機能の低下があるため、外部からのさまざまな刺激(アレルギー)に対して、皮膚炎やかゆみを起こしやすくなります。

アトピー素因といつて、なりやすい体質と、皮膚バリア機能の低下があるため、外部からのさまざまな刺激(アレルギー)に対して、皮膚炎やかゆみを起こしやすくなります。

アトピー素因といつて、なりやすい体質と、皮膚バリア機能の低下があるため、外部からのさまざまな刺激(アレルギー)に対して、皮膚炎やかゆみを起こしやすくなります。

かなか長くない方もいるのが現実です。

善でできるようになりました。投与方法は、2週間に1回、腹部などへ皮下注射を行います。

アトピー性皮膚炎は、発症機序などの病態の解明が進み、注射薬デュピルマブ以外にも、新しい外用・内服薬(JAK阻害薬)も使えるようになり、症状が安定すれば3カ月で1回程度の通院で治療できます。日本が発売されてから3年ほどたち、当院でも幅広く使われています。

2018年に日本でデュピルマブ(商品名デュピクセン)という新しいアトピー性皮膚炎治療薬が使用できるようになりました。デュピルマブはアトピー性皮膚炎のかゆみや、皮膚バリア障害の原因

2018年に日本でデュピルマブ(商品名デュピクセン)という新しいアトピー性皮膚炎治療薬が使用できるようになりました。デュピルマブはアトピー性皮膚炎のかゆみや、皮膚バリア障害の原因

2018年に日本でデュピルマブ(商品名デュピクセン)という新しいアトピー性皮膚炎治療薬が使用できるようになりました。デュピルマブはアトピー性皮膚炎のかゆみや、皮膚バリア障害の原因